

# 「共に生きる力」を育む 総合的な学習の時間の展開

～ 福祉教育の体験・交流を通して～



浦添市立宮城小学校

教諭 迫田 節子

## 目 次

|     |                            |    |
|-----|----------------------------|----|
| I   | テーマ設定の理由                   | 1  |
| II  | 研究の目標                      | 2  |
| III | 研究の仮説                      | 2  |
| 1   | 基本の仮説                      | 2  |
| 2   | 作業仮説                       | 2  |
| IV  | 研究構想図                      | 3  |
| V   | 研究内容                       | 2  |
| 1   | 「総合的な学習の時間」の意義             | 2  |
| 2   | 福祉教育について                   | 4  |
| 3   | 「総合的な学習の時間」と福祉教育の関連        | 5  |
| 4   | 「総合的な学習の時間」として福祉教育を実践するために | 6  |
| 5   | 支援のあり方                     | 7  |
| 6   | 「総合的な学習の時間」における評価          | 8  |
| 7   | 「総合的な学習の時間」と関連教科の年間指導計画表   | 10 |
| VI  | 研究の実際                      | 11 |
| 1   | 単元名                        | 11 |
| 2   | 単元目標                       | 11 |
| 3   | 単元について                     | 11 |
| 4   | 単元指導計画                     | 12 |
| 5   | 本時の学習活動                    | 15 |
| VII | 研究の考察                      | 16 |
| 1   | 作業仮説の検証                    | 16 |
| 2   | 成果と課題                      | 20 |
|     | おわりに                       |    |
|     | 参考・引用文献                    |    |

# 「共に生きる力」を育む総合的な学習の時間の展開

——— 福祉教育の体験・交流学习を通して ———

浦添市立宮城小学校教諭 迫田節子

## 【要約】

本研究では、障害のある人もない人も「共に生きる」ことのできる児童の育成をめざし、「総合的な学習の時間」の体験・交流学习を通して、自ら課題を見つけ追究する学習活動の展開を図るものである。児童は、直接体験をすることによって自らの課題を持ち、学習計画を練り合うことによって追究活動への見通しと意欲も高まった。

キーワード            福祉教育            体験・交流            課題解決

## 1 テーマ設定の理由

近年、都市化、少子化、核家族化が急速に進む中で、子どもの生活体験は、きわめて不足してきている。人間関係も希薄になり、子どもをとりまく現状は、子どもの健全な成長を望むには難しいものとなりつつある。

これからの子どもたちに必要となるのは、自ら学ぶ力と、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると言われている。「福祉教育」においては、人を人として尊重し、お互いを認めあい、協力しあい助け合っていくことができる「共に生きる力」が求められている。そのために、児童生徒が日常の中で接することが少なくなってきた高齢者、障害を持つ人、世代の異なる子どもたちとの出会いと気づきの体験を通じて、生命の尊厳についてじかに学び、人と人との関わりあいや支えあうことのすばらしさを体感し、自ら学び、成長していく教育活動は重要である。

本校の場合、大平養護学校や身体障害者授産施設沖縄コロニーセンター、身体障害者教養文化体育施設サン・アビリティーズうらそえなど子どもたちの身近には学習に取り組む素材が数多くある。前年度、4年の児童は「総合的な学習の時間」で、養護学校や福祉施設など、多くの人たちとのかかわり合いで積極的に活動してきた。その中で、「障害を持っていてもがんばっている。自分だったら・・・」と他者を理解することの大切さに気づき、自己を見つめるきっかけとなる経験をしてきている。しかし、子どもの中には、課題を明確に絞り込むことができず、追究の段階でも、積極的に交流できなかつたりした子もいた。その理由は、課題発見の学習訓練ができていないこと、教師の支援がうまくできなかったこと、又、課題発見ができる学習環境が整っていないことにあると考える。

与えられた課題ではなく、自分なりの思いや願い、疑問を課題にし、活動の意欲につなげたい。そして、いろいろな人と出会い、体験したり、交流を深めるなど、積極的に活動を広げていきたい。そのような体験・交流学习を通して、障害を持つ人々が生活する上での困難や求めていることを理解することができる。そして、不自由な立場でも、夢を持って日々の生活を精一杯送っている人々と触れ合うことによって、生きることの大切さ、やさしく人間らしく生きていくことを、子ども達が感じ取ることができると思う。

そこで、総合的な学習の時間において、児童に興味・関心を持たせ、自ら課題を見つける過程と、追究方法やまとめ方などを考え、学習計画を立てて見通す過程に力点を置き指導していきたい。そして、追究への見通しを持って、体験・交流学习ができるように展開を工夫すれば、人を人として尊重し、お互いを認めあ

い、協力し合い助け合っていくことができる子が育つと考え、本テーマを設定した。

## II 研究目標

人を人として尊重し、お互いを認め合い、協力し合い助け合っていくことができる「共に生きる力」を育てるために体験学習・交流学习を取り入れた「総合的な学習の時間」の展開のあり方について研究する。

## III 研究の仮説

### 1 基本仮説

「総合的な学習の時間」において、地域にある身近な環境や施設等を生かした体験学習や交流学习等に取り組むことによって、人を人として尊重し、お互いを認め合い、協力し合い助け合っていくことができる「共に生きる力」が育つであろう。

### 2 作業仮説

- (1) いろいろな人と出会い、話を聞いたり、交流をしたりするなど直接体験ができるような出会いの過程を工夫すれば、自分の意志で課題を見つけることができるであろう。
- (2) 課題解決の手だてを考え、発表し、学び合わせることによって、課題をしっかりとらえ、追究への見通しを持つことができるだろう。
- (3) 地域の人材を学習協力者として学校に招いたり、子どもが地域に飛び込んで活動することにより、理解・感動体験が生まれ、お互いを認め合い、それぞれの立場で協力しあい助け合っていこうとする心が育つであろう。
- (4) ふり返りカードなどで、これまでの実践を振り返り、自分を見つめ直すことによって、学んだことを生かしたり広げたりすることができるであろう。

## IV 研究構想図

(次ページに記載)

## V 研究内容

### 1 「総合的な学習の時間」の意義

「総合的な学習の時間」を創設する趣旨は、教科等の枠を越えた横断的・総合的な学習を行い、各学校が特色ある教育活動を展開することにある。また、このことによって子どもたちに「生きる力」を身につけさせようとするところにある。

「生きる力」とは何か。中教審の答申は、次のように指摘している。

- ① 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- ② 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性
- ③ たくましく生きるための健康や体力

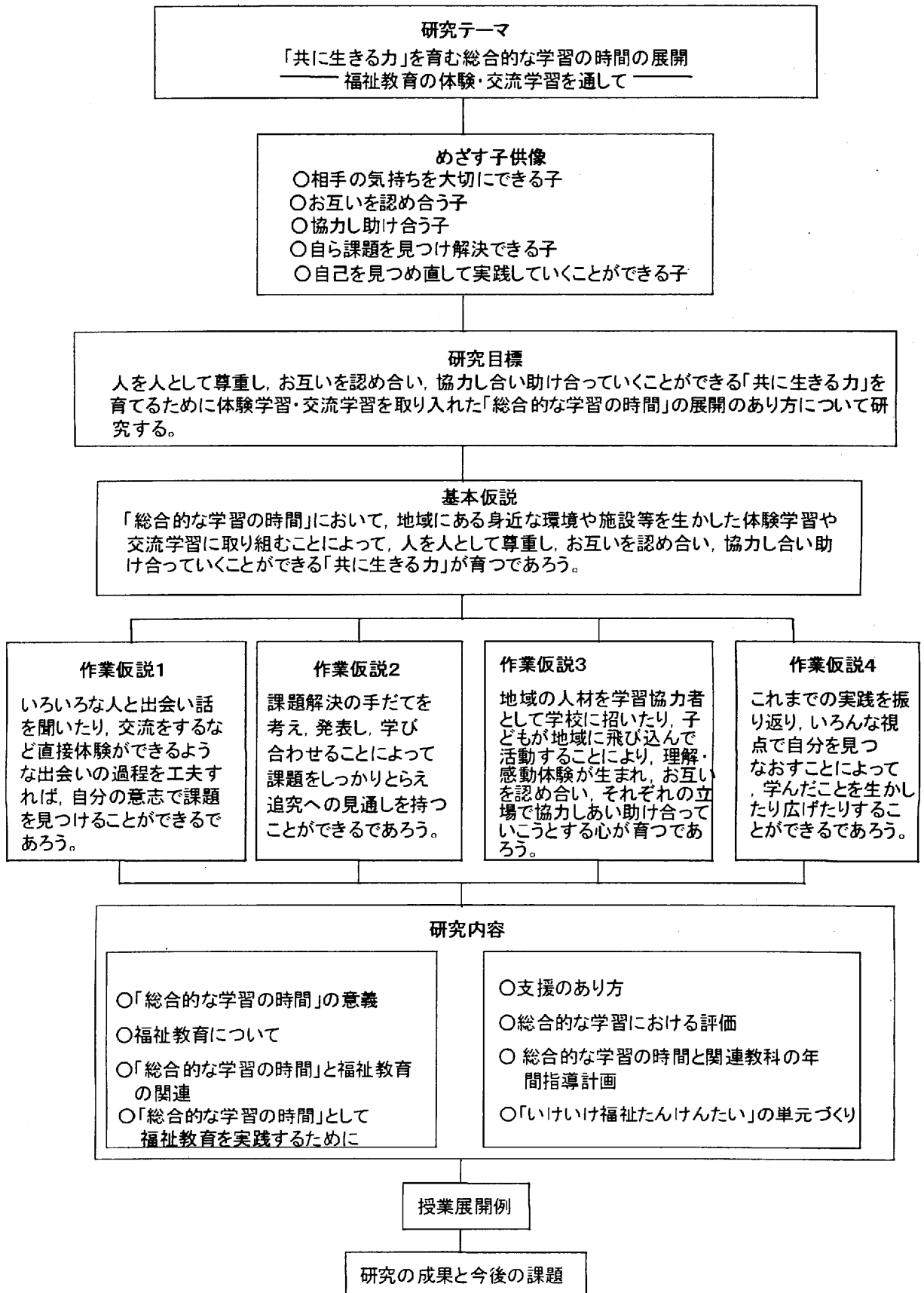
授業づくりの実際と関わって、「生きる力」のポイントが示されている。

一つ目に、やる気（意欲）である。

二つ目は、自分で考えることである。

三つ目は、他とともにということである。（中野重人）

## IV 研究構想図



「生きる力」をはぐくむ総合的な学習は、その多くを各学校の創意工夫に求めているが、学習指導要領では、次の二つのねらいで指導することを求めている。

- ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること
- ② 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て自己の生き方を考えることができるようにすること。

総合的な学習は、「生きる力」をはぐくむために新設されたものである。従来の教科の学習では育てることができにくかった「生活の中で生きて働く力」を育てることができれば、「総合的な学習」は、学校を変え、子どもを変える意義をもつ。「総合的な学習」によって実現することが期待される学校教育の変化について以下のように述べられている。

一つ目に、子どもの学習環境が変わる。子どもは地域で学ぶことを知り、地域の一員であることを自覚し、たくましく育っていく。

二つ目は、子どもの学習観が変わる。子ども主体の学習観に立った活動から、学び方やものの考え方、学ぶ意欲など身につくからである。

三つ目は、子どもの居場所が生まれる。一人ひとりのよさや可能性を大切にし、個性を伸ばすことができる学習として期待がかけられる。

(廣嶋憲一郎)

このことが実現すれば、子どもにとって「総合的な学習」は、待ちこがれる時間となり、学校生活自体がもっと楽しいものになるであろう。

## 2 福祉教育について

### (1) 福祉教育の意義

福祉とは、生活水準を保つことであると同時に人間相互の協力関係や、社会参加活動を行うことである。

福祉教育は、すべての人を個人として尊重し、思いやりの心を持って助け合う態度を育て、共に生きる人間の育成をめざすものであり、子ども達の人間性に深く関わり、また学校教育が抱える課題克服の大切な方途となるものである。

福祉教育の目標は、①福祉に対する関心と理解を深めること、②福祉の心を育てること、③福祉の実践意欲を向上させ態度を身につけさせることを目指すものである。これらは、ときに別々に、またときに相互に関連しながら一人ひとりの子どもたちの中に具現すると考えられる。その場合、福祉の実践を子どもの発達段階との関係および子ども一人ひとり教育効果の個人差を考慮する必要がある。

### (2) 発達段階に応じた「福祉教育」のあり方

#### 低学年

この時期は、自己中心的な立場がくずれて、物にはいろいろな見方があることもわかってくる。しかし、いまだ、幼児的特性を残存させているので、他人の立場を十分理解して行動することが困難である。子どもは親への依存から独立の方向へ発達していくが、この時期はまだおとなへの依存期にあると言ってよい。自分で考えたり、判断したりして行動するだけの自信がまだない。このおとなへの依存心や一体感は、おとなの権威を尊重する心、おとなの命令に服従しようとする心でもある。具体的な思考をする段階にあるので日常の学級生活の中で具体的に指導することが多くなる。友達と仲良く助け合おうとする態度や親・教師などを尊敬する心などをふくらませて身近な高齢者との関わり等、

身近な人々に目を向け、温かい心で接し親切にできることなど、感性豊かに「福祉の心の芽生え」育てることが大切となる。

#### 中学年

この時期の児童は、ギャングエイジの時期ともいわれ、少年らしさに満ちあふれた活動的な姿がイメージされる。それは、自分の目で、自分の力で、自分の手で物事を確かめようとする人間としての発達要求といえる。知ること、学ぶことに対する意欲もあるが明確な具体目標が必要である。その目標に到達するための見通しがひとつひとつの具体的な課題として意識されることが大切である。個人間やグループ間における、ささいな事での対立や争いも起こる。集団内での自己や他者の立場、そして他集団とのあり方について指導し、人間と人間とのふれあいの中で具体的に考えていける子を育てていかなければならない。低学年で培われた「福祉の心への芽生え」の上に人間尊重の精神を相互扶助や連帯感にまで高め、集団として「福祉実践の素地」を培っていくことが必要である。

#### 高学年

高学年になると、家庭でも学校でも、世間的にもその地位は大きく変化する。一人前のあつかいになり、義務的課題を責任もってまかされる。そして、周囲の事物や人々とのことはもちろん、自分自身に関する諸関係にもしだいに意識的になり、責任を感じるようになる。学習面では、低・中学年時代にたくわえられた基礎的知識、能力経験に支えられて、やがて興味や関心も分化し、体系化、抽象化された学習も理解できるようになり、自分自身のことばかりでなく、周囲の多くの人びとや事柄にも目を向けることが可能となる。それはまた、いままで一般に比較的スムーズにすすんできたおとなとの関係がこわれはじめる時でもある。「生きること」の意味についても学びながら、人や地域との交流を積み重ね、深まりつつある福祉の心を支えにして、民主的な社会を維持し発展させるための資質を養成するべく、「福祉実践への積極性」を育てるようにしたい。

### (3) 福祉教育における体験、交流の意義

福祉教育における体験が福祉教育が目指す目標の一つである「福祉の理解」や「福祉の心」の育成の深化にきわめて有効であるということ、そして、そのような心情や理解は実践に結びついて初めて人格化していくということからも重視される。さらに、今日の子どもたちの家庭や地域社会での生活において福祉的な体験を持つ機会がきわめて少ないこと等も体験の教育的意義が注目される背景として考えられる。

体験を重視した教育が効果をあげるためには、それが児童生徒の興味や関心を生かしたものであり、自主的、自発的な学習が促されるようにする必要がある。体験が一人ひとりの子どもの教育的な経験として内在化するためには、子どもの意志が尊重され自発性を育むような体験であることが求められる。その体験が次の福祉実践を促すと考えられるからである。一人一人の子どもが体験を通して実感し、自分なりの物の見方や考え方をもって活動を進めていくことができるように支援することを大切にしたい。

交流学習においては、他者との交流を体験させることを目的とするだけではない。それも含めながら、むしろ、他者との交流活動の過程において得ることのできるさまざまな知見をもとに、やがては「自分」へと目を向けていくことができるようになることをめざしているのである。他者とのふれあいの中で、他を思いやる心が芽生えることにより「自分」を大切にできる者は、他者とのかわりにおいても新たな考え方・接し方を生み出すことができるようになるはずである。

## 3 「総合的な学習の時間」と福祉教育との関連

福祉教育の目標の内容が、「生きる力」の内容と似通っていることが注目できる。「生きる力」の内容の①②は、福祉教育における「福祉の理解」「福祉の心」とほぼ同じ内容を含んでいる。このように考えてみると、新たな視点から福祉教育を再構築するというのではなく、福祉教育の理念を実践へと適切に反映できる手だてを見つけることである。そのためにも、従来行われてきた福祉教育実践をもう一度検討し直すことが必要となる。

また、福祉教育の究極的な目標は、「福祉のまちづくりをめざす人間をそだてること」にある。学校における福祉教育が成功するためには、子どもたちの地域社会における福祉活動を学校の中で組織することである。「地域における体験的な学習を重視する」という「総合的な学習時間」の理念と照らし合わせてみても、福祉教育が「総合的な学習の時間」のなかで成立する可能性は高い。

#### 4 「総合的な学習の時間」として福祉教育を実践するために

##### (1) 地域の特徴を生かす

地域には総合的な学習で子どもたちがかかわることのできる様々な施設や設備がある。また、多様な行事が行われている。子どもの実態を把握するとともに、地域や学校の特徴を把握することが重要である。また、それらの施設・設備の使用規定や使用上の注意などについても十分に理解することが必要である。こうしたことを円滑に進め、総合的な学習が充実するためには、地域社会の人々、関係機関や施設の人々との連携が欠かせない。総合的な学習では様々な人々とかかわることが求められるのである。

##### (2) 疑似体験の取り入れ方を工夫する

疑似体験はよりよい交流のための方法として、学習に取り入れられるべきである。アイマスクをした状態とは何を意味し、何のために体験しているのかを明確にして取り組まなければならない。一般的には、学校において、車いす、アイマスク、点字、手話などを通して体験する活動が多い。中でも、車いす、アイマスクを使っての体験活動は盛んである。実際に車いすを動かして体験する、友達を車いすに乗せて階段を昇ってみる、などの体験活動を通して、障害を持つ人々が生活する上での困難や求めていることを理解することは福祉の重要な一ステップである。また、点字や手話を学ぶことによって、目の見えない人々、耳の聞こえない人々への理解を深め、これらの人々との交流を図ることも可能になる。

##### (3) 働きかけ（交流）のある学習にする

総合的な学習では多様な人々との出会い、ふれあい、かかわりあい、学び合いがある。人や社会とのかかわり体験の乏しい子どもたちにとって、大切にしたい機会である。子どもが一方的に体験し学ぶというだけでなく、他者とのかかわりのなかで実際に学びを生かし行動するなど、働きかけのある学習にしていくことが大切である。このことは学習をより具体的にし、子どもにとって学びを必要性のあるものとするであろう。

##### (4) 3つの要素を関連させる

地域、体験、交流という3つの要素を、なるべく教師主導ではなく子どもの興味・関心にそう形で、相互に関連させ結びつけながら、単元を構成し展開することが望ましい。

##### (5) 各教科・道徳・特別活動との関連

- ① 各教科では、福祉に直接かかわる内容を含む事項と関連する内容を含む事項相互の関係を検討し、指導計画に位置づけ、指導効果を高める工夫をする。
- ② 道徳教育では、人間尊重の精神に基づき、道徳の時間の充実に努めるとともに、福祉教育の目標



との関連を図り、全教育活動を通して指導する。

- ③ 特別活動では、福祉教育を体験的に展開できる領域であるので、福祉にかかわる諸活動に自発的に参加することにより福祉の心を育て、実践的な能力や態度を養う。
- ④ 教育活動では、福祉教育と学校教育の目標との関連を図り、学校の実態に即して多様な実践が行えるように工夫する。

## 5 支援のあり方

### (1) 課題の持たせ方

「総合的な学習の時間」で大切なことは、子ども自らが学習課題を見だし追究することである。ただ、子どもが学習したいことを何でもやればよいというのではない。「総合的な学習の時間」で子ども達に見つけさせる課題は、地域や社会とつながっており、また、学び方やものの考え方を鍛える機会を提供してくれるものであることが必要である。そして、何のためにこの課題を追究していくのか中心になる考えをしっかりと持ってやることが大切である。

子どもにとって最も重要でありながらむずかしい問題は、子ども自身が課題発見できることである。

- ① そこで、課題が出やすい学習環境を整える。子どもに「おや、変だぞ」と思わせる学習場面を設定する。
- ② また、「総合的な学習の時間」の導入においても、ホンモノの力は圧倒的である。地域の環境保護団体の代表者の方と自然観察に出かける、福祉教育のスタートにボランティアリーダーの講演を聞く等の機会を通じて、子ども達は課題発見・追究の旅を始める意欲を高める。
- ③ さらに子どもの内面を揺り動かすことのできる（感動・実感・驚き等）環境や人との出会いによって、学習課題を明確にすることができると考える。
- ④ 方向づけをする。

イメージマップ（ウェビング）による手法などを用いて、子どもの想いを教師が整理していく必要がある。

### (2) 追究・まとめの支援

#### ① 学習計画を立てる

学習計画をブレインストーミングの手法を使って、子どもたちの意思を尊重して立てさせ検討し合うことによって、追究への見通しと意欲を高めるよう配慮する。

#### ② 活動を整理し、振り返る。

活動をしっぱなしではなく、記録し整理（分析）していく必要がある。学習カードを作成し、活動をして振り返り、次の活動に向かうことができるように記録させていく。その子のこだわり、思考を理解し、コメントを入れ励ましていく。

#### ③ 情報のありかを教える。

「〇〇については、□□に行けばわかる。」ということ教師がアドバイスしてあげる必要がある。一つではなくいろんな情報を得ること、確かな情報を得ることも大切なこととしてアドバイスする。子どもたちの課題の追究に応えられる資料の収集を教師もやっておかななくてはならない。地域マップや人的ネットワークを作り出すことも重要な環境づくりである。

#### ④ 調べ方の学び合い

電話のかけ方、手紙の書き方、インタビューの仕方、施設訪問の仕方等を学ぶことにより、調べ方や考え方が身につくようにする。そこで、それらの学習を進める上での準備や具体的な方法

を明記したガイドを用意し、必要なときにグループで利用できるようにしておく。

#### ⑤ まとめ・発表の仕方の学び合い

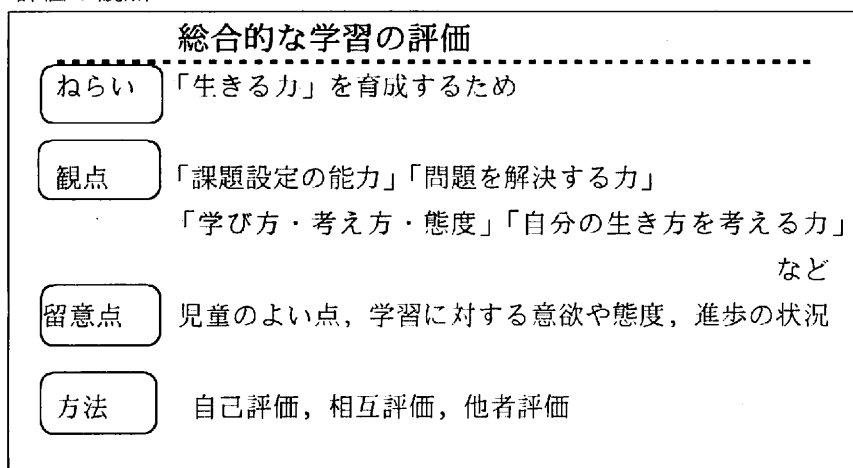
まとめ・発表する方法も、レポート・ビデオ・げき・新聞・プレゼンテーションソフトを使う・ポスターセッションを行うなど、さまざまな表現方法がある。クイズ形式などを使って、発表者と問答しながら参加できるようにするなど、子どもたちがのびのびと楽しみながら活動し、意欲的に取り組むことができるように支援していきたい。そこでもガイドを用意し、利用できるようにしておく。

### 6 「総合的な学習の時間」における評価

学習指導要領、審議のまとめでは、よい面の肯定的評価や結果だけの評価だけではなく、活動や学習の過程の評価を行っていくこと、試験などによる数値的な評価が行われないようにすることを示している。

「総合的な学習の時間」においては、指導後の評価も大切であるが、より指導中の評価が大切な意味合いもっている。学習者が学習の過程においてどのような活動を行っており、どの程度理解しているのか、次の学習にどのように進もうとしているのかを教師は把握しなければならない。次の支援のために個やグループの学習状況を把握することは大切なことである。「総合的な学習の時間」の評価として、子どもたちの学習を促進させるための自己評価や教師の適時的な支援や指導のための子どもの評価を考えていきたい。

#### (1) 評価の観点



#### (2) 具体的な評価方法（ポートフォリオ）

ポートフォリオとは、携帯用書類入れのことである。教育におけるポートフォリオは、学習課程や結果に関する情報や資料を評価という目的を持って収集したものと言える。

体験活動後の感想や学習計画表、毎時間の自己評価表、調べた資料やその時の感想文、交流の際に送った手紙など、「総合的な学習の時間」に関わる個人の情報や資料を1冊のファイルに入れていくことである。

#### (3) ポートフォリオの進め方

「総合的な学習の時間」の流れ

準備

ポートフォリオの目的と説明（子供へ）

テーマ設定

### 元ポートフォリオづくり

- 「テーマ」「理由」「目的」を書いた紙を1ページ目に入れる。
- 「月日」「形態」「内容」「感想」「評価」など学習の全体が見える一覧表を入れる。
- その日の成果ページ(ワークシート)  
その日どこまで進んだのか?気づきや感想なども入れる。
- いろいろな資料やデータ, 写真など。日付と考察や感想を添えて入れる。

計画表

情報収集

作成・創造

### 凝縮ポートフォリオづくり

- 「元ポートフォリオ」から重要なところを発見
- ポートフォリオを見ながらこれまでの学習を4枚にまとめる。重要なこと伝えたいことを見た人の役に立つようにまとめる。

プレゼン

### 成長エントリーづくり

- 「元ポートフォリオ」から身についた力を発見
- ポートフォリオから自分の成長した所や出来るようになったことを発見しよう。

### ※最初か最後に約束ごと

学習に取り組む際のルール, ファイルするときの約束ごとを入れる。

#### (4) ポートフォリオで大切にしたいこと

ポートフォリオから子供理解のための評価を行い, そのことをもとに学習プログラムのみ直しや子どもへの支援のあり方を考えることが大切なことであるが, 同時に子供自身で自己評価することによって今の自分を高次から自己評価する能力を育てるという側面もある。例えば, 「・・・をしているけれど, 本当にそのやり方でいいのか」という自問自答をさせていくことである。

そのために学習活動の中に, 自己評価の場面を取り入れていき, 自己評価した際に教師が目を通し, 可能な限りコメントを入れていくことが大切である。

ふ り 返 り カ ー ド 1

ふ り 返 り カ ー ド 2

年 組 名 前

年 組 名 前

★学習計画検討会の活動を振り返りましょう。

下に書かれた A B C のどちらができましたか。

|    | 話し合い活動を振り返ろう。           |
|----|-------------------------|
| A  | 質問・アドバイス・感想を発表することができた。 |
| 理由 |                         |
| B  | 質問・アドバイス・感想を考えることができた。  |
| 理由 |                         |
| C  | 発表したり, 考えたりできなかった。      |
| 理由 |                         |

★グループの学習計画を発表したり, 質問やアドバイスに答えることができましたか。

\_\_\_\_\_

★自分たちのグループの計画を見直すことができましたか。

\_\_\_\_\_

★先生から

\_\_\_\_\_

★【追究する】活動を振り返りましょう。

自己評価 ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった

| 項 目                                  | ◎○△ |
|--------------------------------------|-----|
| ①課題をかいけつするために, 資料を集めたり調査することができましたか。 |     |
| ②課題をかいけつするために, 人の話をしっかり聞くことができましたか。  |     |
| ③体験や交流をして, 友だちになることができましたか。          |     |
| ④グループではみんなで協力しながら, 活動を進めることができましたか。  |     |

★【追究する】ときに, がんばったことやこまったことは何ですか。

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

★先生から

\_\_\_\_\_

7 「総合的な学習の時間」と関連教科の年間指導計画表

|                  | 4月   | 5月   | 6月   | 7月  | 8月  | 9月                      | 10月                   | 11月         | 12月         | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------------|--|--|--|---|---|-------------------------|-----------------------|-------------|-------------|----|----|----|
| 学<br>習<br>計<br>画 | <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span>い</span><span>け</span><span>い</span><span>け</span> <span>福</span><span>祉</span> <span>た</span><span>ん</span><span>け</span><span>ん</span> <span>た</span><span>い</span><span>い</span> </div> |  |  |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
|                  | オリエンテーション  | 自分の健康について考える。<br>・「体調べ」の計画を立てる                           | いろいろな人々と出会う、出られる。<br>・「福祉」ってなんだろう<br>・校区たんけん | 体験・交流学習を通して、認め合い、育つ心を通い合わせる。<br>・課題を追求する<br>(養護学校)<br>(障害児児童保育)<br>(福祉施設で働く人)<br>(障害者のスポーツ)<br>(目の不自由な人)<br>(耳の不自由な人) | 学んだことを生かしたり広げたりする。<br>・学習のまとめをする<br>・かわってきた自分をふりかえろう<br>・自分にできることを考える |                         |                       |             |             |    |    |    |
| シヨク              | 「体調べ1」をする  | 大平養護学校の子と交流会をしよう   | 課題をまとめる                                      | 実践活動  |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
| ン                | 「体調べ2」をする<br>「体力測定」をする<br>「私の体図鑑」を工夫して作る   | 「障害」って？<br>瑞慶山さんの話<br>課題を見つける<br>学習計画を立てる<br>学習計画の検討会をする | 発表会をする                                       |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
|                  | 出会う  | 広げる  | 出会う  | つかむ   | 見通す   | 追究する                    | まとめる                  | 発表する        | 広げる         |    |    |    |
| 国語               | 町に大きなばか来た (インタビューの仕方) 方言について調べて (依頼文の書き方)  |  | 中心をはっきりさせて (書く事柄の収集・選択)                      |   | 遊び方をしよう (かいしよう)   |                         | 「便利」ということ (内容・バリアフリー) |             |             |    |    |    |
| 社会               | ごみが生まれかわる (資源回収活動)   |  | 交通事故をふせ (健康・安全)                              |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
| 算数               | 整理のしかた 折れ線グラフ (健康調査)   |  |  |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
| 理科               |  |  |  |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
| 音楽               |  |  |  |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
| 図工               | 動くおもしろさ (交流会・プレゼント作り)  |  |  |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
| 体育               | 保健   |  |  |   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |
| 道徳               | いのちのバトン (生命尊重)   | 環境を守りたい (郷土愛)  | わたしのと (信頼・友情)                                | つばさ (思いやり)  | お元気で (尊敬・感謝)  | おはよう (生命尊重)             | ひるっ (思いやり)            | 気持ち (明朗・誠実) | こたえ (信頼・友情) |    |    |    |
| 特活               | 函を大切にしよう (健康)  | 資源回収活動 (年間)  | 合ってエネルギー (自己・他者理解)                           | 夏休みボランティア発表会  | ホームページ (自己理解・他者理解)  | 命を大切に (エイズ) 命を大切に (エイズ) | お年寄りと交流しよう (車いす贈呈式)   |             |             |    |    |    |
| 情報教育             | ワープロ入力   | 画像を取り込み 文章の作成  | インターネット                                      | Eメールの活用   |   |                         |                       |             |             |    |    |    |

## VI 研究の実際

### 1、单元名

「いけいけ 福祉たんけんたい」

### 2、单元目標

- (1) 交流や人との関わりから、課題を見つけ、学習計画を立てることができる。
- (2) 体験や交流学习などを通して課題を追究し、調べたことや伝えたいことを工夫して発表することができる。
- (3) 障害を持っている人の存在に気付き、それらの人々への理解を深め、「共に生きる」ことについて考える。

### 3、单元について

#### (1) 地域観

校区には、交通量の多いバイパス通りの商店街を中心にアパートやマンションの多い住宅地が広がっている。近くには、小湾川、チョンダ公園、宮城公園があり、子どもの遊ぶ姿やお年寄りのふれ合う姿が見られる。また、大平養護学校もあり、毎年交流会を持ち、障害のある同年齢の子との交流も行われている。さらに、身体障害者教養文化体育施設サン・アビリティーズうらそえや身体障害者授産施設沖縄コロニーセンターや知的障害者授産施設わかたけ等の福祉施設もある。

浦添市としても「障害のある人もない人も含む、すべての市民が住み慣れた地域で、ともに支え合いながら生きていけるまちづくり」を目指して「たごふくしプラン21」を策定し、社会福祉協議会の実施事業として、ボランティア活動、福祉教育の推進がなされてきた。

身近な人や施設等との体験交流を通して触れ合うことで、地域とのかかわりを深め、地域の一員として自分の生き方や考え方を高めていくものとする。

#### (2) 教材観

子どもたちは、ボランティアコーディネーターの話から、「福祉」とは、「ボランティア」・「みんなのしあわせ」ととらえた。みんなとは障害のある人、外国人、お年寄り、子ども等であり、「障害のある人もない人もみんながしあわせに暮らしていける町作りのために」福祉について学んでいくことになった。

4年生にとって、身近な学校や家庭の中から「福祉」について理解することは難しい。障害などの困難を抱えている人を通して考える方が、より具体的で気づきやすいのではないかと考える。走るとき、障害のない人なら、さっと飛び越えることのできるハードルが障害のある人にとっては難しい。「その困難を少しでも取り除く」「しあわせに近づける」「障害のある人のことを考える。」など、障害者や福祉施設での体験交流を通して、福祉について学ぶ機会としたい。

#### (3) 児童観

児童は3年生の時、校区の保育園やゲートボールをしているお年寄り、公園での清掃活動をしている人々とふれ合い活動をしてきた。身近な人とうまく付き合っていく活動を通して、困っている友達に進んで手を貸すようになってきたり、協力してグループ活動ができるようになるなど、児童の活動に変化が見られるようになってきた。

4年生になっての校区探検では、大平養護学校を見つけ、「中を見たいな」「どんな勉強をしているの」「友達になりたい」など興味・関心が高く、もう一度行って調べることになった。

しかし、福祉に関するアンケートの結果によると、身近に障害のある人を見たり、話をしたことが

あるのは半数で、手助けをしたことがある子は少ない。また、「仲良くできるか不安」など養護学校に行きたくないという子が少数ではあるがいる。

この時期の児童は、知的好奇心も旺盛で、一つのことに集中すると、とことん追究していこうという熱意と行動力を持ち合わせている。初めは、多くの子が不安を抱きながらの出会いとなるだろうが、遊びを通して交流する中で、仲良くできることを知り、そして、様々な疑問を持ちながら課題を見つけ、追究活動を展開できると考える。

#### (4) 指導観


自ら課題を持ち、追究できる子を育てるために、課題をもつまでの活動の充実を図り、十分に思考を深めて、課題を見つめ直すことが重要であると考えます。




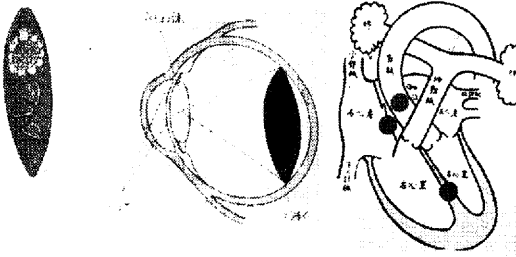


初め、子ども達は、何が課題となるのかよくわからず、自分で課題を見つけきれない場合が多い。そのまま、課題を決定し、追究活動に入った場合、意欲的に追究活動ができず、自分をみつめなおすこともできずに学習を終わってしまうことが考えられる。


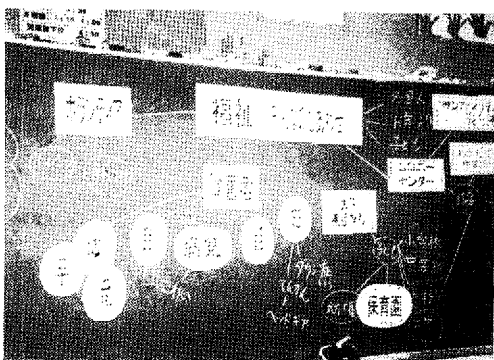
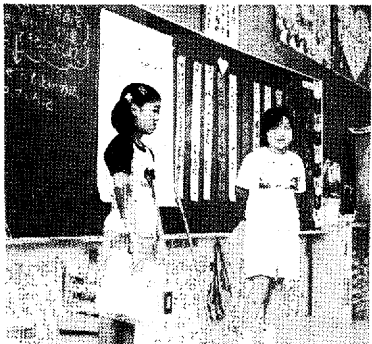

そこで、本単元では、子どもたちが自分なりの思いや願いを見つけ、疑問をしっかりと持つことができるように、いろいろな人と出会い、話を聞いたり、交流したりするなど子どもたちの「感動」をも起こす直接体験を増やしたい。そして、学習計画を立て、検討し合うことを通して、課題を明確にし、見通しを持たせたい。

子どもは、内から湧き出る意欲に動かされ追究活動を展開し、「追究する力」が育まれていく。その場合、子ども自ら活動の主体となって、人や社会と関わり、体験を通して学び、自らの役割を認識して、行動・実践につなげていくことができると考える。

#### 4、単元指導計画 (50時間)

| 過程  | 時数 | 学習活動   | 教師の支援   | 評価                   |
|-----|----|--|---|----------------------|
| 出会う | 1  | ・福祉についての話を聞く。<br> | ・ゲストティーチャーの話を聞くことにより、今後の学習活動に意欲を持たせる。   | ・学習活動ワークシート          |
|     | 1  | ・校区探検をする。  | ・地域に養護学校があることを知り、関心を持たせる。   | ・教師観察<br>・学習活動ワークシート |
|     | 4  | ・養護学校へ行く準備をする。<br>・養護学校の友達の様子をビデオレターで知る。<br>・ヘアの友達を決め名札づくりをする。                                       | ・目的を持たせるようにする。<br>・養護学校から送られてきたビデオレターを見せ、どの子が自分と交流する相手になるかを知らせる。<br>・事前に相手校担当者と連絡を密にしておく。 | ・教師観察                |

|     |  |  |  |
|-----|--|--|--|
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌や踊りの練習をする。</li> <li>・「わたしたちのトピアス」を読み交流するときに気を付けることはどんなことか、一緒にできることは何か考える。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会で交流のめあてを確認し、内容を決めるようにする。</li> <li>・初めての障害児との出会いなので、不安をやわらげるようにする。</li> </ul>  |  |
| 4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護学校の友達と交流する。</li> <li>自己紹介 出し物</li> <li>ゲーム ダンス</li> <li>・分かったこと、思ったことをまとめる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての顔合わせにおいては、子ども同士の交流の中での気づきを尊重したい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師観察</li> <li>・VTR, 写真</li> <li>・学習活動ワークシート</li> </ul> |
| 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害についての話を聞く。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門の知識を持っている先生の話を見せる。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動ワークシート</li> </ul>                                  |
| 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害を持つ子の親の話を聞く。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・成長の喜び、親の願いなどを聞かせる。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文</li> </ul>   |
| 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目の不自由な人の話を聞く。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目の不自由な人の思い、盲導犬のこについて聞かせる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文</li> </ul>   |
| つかむ | <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの学習の感想をもとに、自分達の課題を明らかにする。</li> <li>・ウェビング</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションで、学習の想起をさせ、意欲を高める。</li> <li>・キーワード<br/>「福祉」「みんなのしあわせ」</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師観察</li> <li>・課題カード</li> </ul>                        |
|     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ課題や近い課題の者同士でグループを作る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオも参考にして考えさせる。</li> </ul>   |  |

|                  |  |   |   |
|------------------|--|---|---|
|                  |  |    |   |
| 見<br>通<br>す      | <p>2 ○それぞれのグループで、課題解決に向けて学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブレインストーミング</li> </ul> <p>3 ○グループごとに学習計画を発表し、これからの計画について練り合う。</p>  <p>1 ○電話や聞き取り調査等による情報の集め方や取材の仕方を学び練習する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの見通しを持たせるための学習計画を立てさせる。</li> <li>・情報提供させたり、よい所を学ばせたりして、今後の活動の参考にさせる。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査するために施設訪問等の計画のあるグループは事前に手紙や電話で連絡させておく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマカード</li> <li>・ふり返りカード</li> </ul>                         |
| 追<br>究<br>す<br>る | <p>10 ○それぞれのグループで課題を追究する。</p> <p>(予想される追究活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・養護学校での生活を知ろう</li> <li>・学童保育での生活を知ろう</li> <li>・働く様子を知ろう</li> <li>・スポーツをする様子を知ろう</li> <li>・目の不自由な人の生活を知ろう</li> <li>・耳の不自由な人の生活を知ろう</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各交流、訪問先とは事前に連絡を取り、児童がスムーズに活動できるようにする。</li> <li>・現場に赴き、観察、情報収集、聞き取りを行う。</li> <li>・各グループの追究の状況を把握し、適宜助言する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動ワークシート</li> <li>・ファイルされた情報</li> <li>・ふり返りカード</li> </ul> |
| ま<br>と<br>め      | <p>10 ○調べたことをもとに、発表の方法を決め、まとめる。</p> <p>2 ○発表会の準備をする。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや思いを分かるように伝えていく表現の方法を工夫させる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動ワークシート</li> </ul>                                       |



|      |   |                             |   |                      |
|------|---|-----------------------------|---|----------------------|
| 発表する | 2 | ○発表会をする。                    | ・お互いの良さを学び合う場にする。                               | ・ふり返しカード             |
| 広げる  | 1 | ○お世話になった人にお礼の手紙を書く。         | ・ポートフォリオも参考にして考えさせる。<br>・実践していけそうなことをみんなで確認させる。 | ・学習活動ワークシート<br>・教師観察 |
|      | 2 | ○自分の成長した所や出来るようになったことを発見する。 |   |                      |
|      | 2 | ○これから、自分たちができることは何かを考える。    |   |                      |

## 5 本時の指導

### (1) 目標

追究の見通しを確かなものにするために、グループごとに学習計画を発表し、これからの計画について、質問・アドバイス・感想等を話し合い練り合う。

### (2) 授業仮説

学習計画を発表し、これからの計画について練り合うことによって、追究への見通しを持つことができるであろう。

### (3) 展開

| 過程   | 学 習 活 動  | 教師の支援   | 評価   |
|------|--|---|--|
| つかむ  | 1、学習のめあてと流れをつかむ。<br>課題や学習計画について、みんなで話し合い、しっかり追究できるようにしよう。  | ・これまでの学習を振り返り、本時のねらいを確認する。  | ☆本時の学習のめあてを持つことができる。   |
|      | 2、発表や聞く視点を確認する。<br>○調べたい内容や方法が聞き手によくわかるように発表しよう。<br>○質問やアドバイスができるように、しっかり聞こう。  | ・発表する側、聞く側のめあてを確認する。  | ☆発表する側と聞く側のめあてをもつことができる。   |
| 追究する | 3、課題別グループで学習計画について発表したり、聞いたりする。<br>○障害や病気について<br>○障害者のスポーツ・車イス<br>○養護学校<br>○目の不自由な人<br>○障害者の仕事<br>○障害児の保育園<br>○障害児の学童<br>○ボランティア | ・自分の課題の学習計画について、自信をもって発表し、質問やアドバイスにはっきり答えられるように支援する。<br>・調べる内容や方法で、情報提供したり、よい所を学ばせたり今後の活動の参考にさせる。 | ☆まとめた内容を相手にわかりやすく伝えることができる。<br>☆他のグループへアドバイスをしたり、よさを見つけたたり、認めたりすることができる。 |

|                  |   |  |                                |
|------------------|---|--|--------------------------------|
| ま<br>と<br>め<br>る | ○障害者のためのくふう<br>4, 学習のまとめをする。<br>○感想を書く。 | ・今日の活動を振り返らせ、<br>これからの活動の意欲付け<br>にする。<br>・今日の学習をもとに、次時<br>の学習をどう組み立ててい<br>くか考えさせる。 | ☆自分や友だちの<br>良さを見つける<br>ことができる。 |
|                  | 5, 次時の学習について知る。                         |  |                                |

(4) 評価

- ①学習計画を発表し、質問やアドバイスに答えることができたか。
- ②他のグループの学習計画を聞き、情報提供したり、よい所を学ぶことができたか。

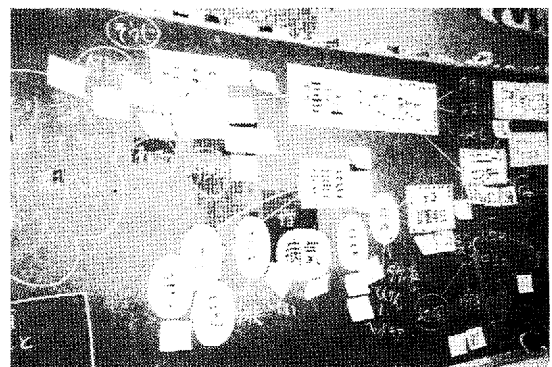
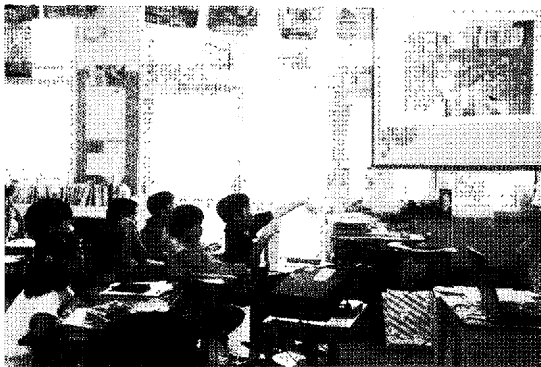
**VII 結果と考察**

1 作業仮説の検証

(1) 作業仮説(1)の検証

いろいろな人と出会い、話を聞いたり、交流をしたりするなど直接体験ができるような出会いの過程を工夫すれば、自分の意志で課題を見つけることができるであろう。

- これまでのいろいろな人との出会いを、パワーポイントのプレゼンテーションで視覚に訴えることにより想起させた。児童の中から「あっ、仲本さんだ」「雪乃さんと T くんだ」とつぶやきがたくさん出てきた。そして、出会いの中で聞いた話を「福祉とはみんなのしあわせ。障害のある人のことを思ってあげる。考えてあげるのも福祉」などとみんなで思い出すことができた。
- それから「福祉」「みんなのしあわせ」というキーワードから出発し、いろいろな人、障害者、福祉施設などに目を向けさせウェビングしていった。そのウェビングやポートフォリオも参考にしながら全員がカードに自分の課題を書くことができた。最後まではっきりしなかった二人もウェビングを見ながら、決めることができた。



- 「総合的な学習の時間」の出会い過程で、話を聞いたり、交流をしたりするなど 直接体験を多く持つことにより、

- ・いろいろな人がいっぱいいるんだな
- ・なんで障害があるんだろう。

- ・もっと仲良くなりたい。
- ・こんなに不自由な人かわいそう。
- ・ぼくたちにできる福祉をやってみたい。
- ・いろいろな障害を持っているのにいっしょうけんめいがんばっている。
- ・病気や障害のない世の中になったらいいなあ。
- ・大きくなったら、障害のある人を助けたい。

など、自分なりの思いや願い、疑問が出てきた。それをもとに自分の課題を作ることができた。

## (2) 作業仮説(2)の検証

課題解決の手だてを考え、発表し、学び合わせることによって、課題をしっかりとらえ、追究への見通しを持つことができるだろう。

### ○ グループで学習計画を立てることができたか。

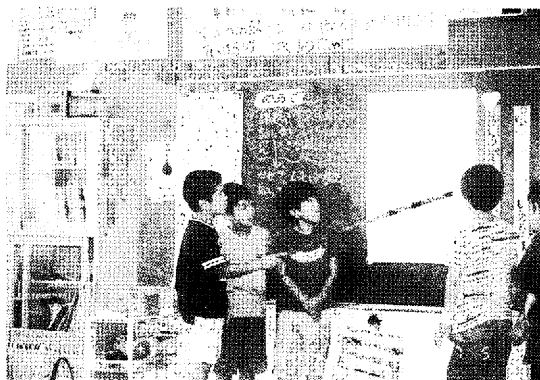
まず、ブレインストーミング(可否を問わず、思いついたことをどんどんあげていく)で出されたさまざまなくわしく調べたい内容をグループで、4つか5つに仲間分けをして決めていった。夢中でブレインストーミングをして、たくさん調べたいことを出すことができ、調べたい内容をまとめていくことができた。

そして、「総合的な学習の時間」の学習の流れ(オリエンテーションにて学習)を参考に、調べる方法、まとめる方法を考えていった。たくさんの中から有効な方法や興味・関心に基づいて決めていたようである。

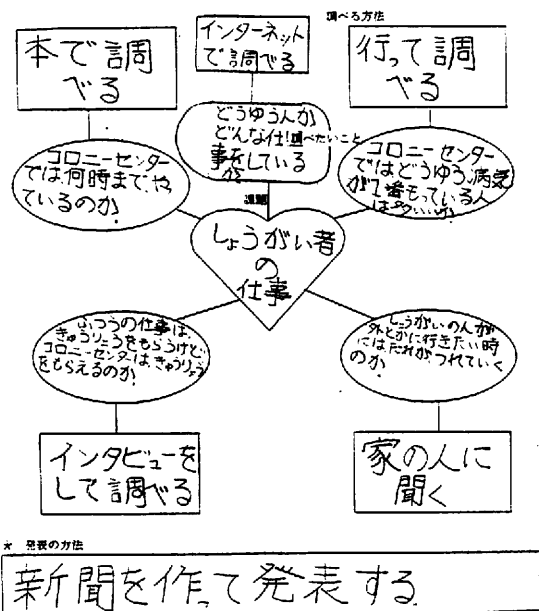
「追究」への意欲も見られ、電話でお願いする文を考えているグループもあった。早く電話をしたということがあった。

### ○ グループの学習計画を発表することができたか。

33人全員がグループの学習計画を発表することができたと答えている。「グループの発表の進め方」とワークシート(グループの計画)がそのまま発表シナリオの役割をはたして、自分の発表する部分を堂々と発表していた。



- グループの発表の進め方
- ①はじめのあいさつ
  - ②調べてみようと思う理由
  - ③グループの課題
  - ④調べる内容と方法
  - ⑤発表の方法
  - ⑥質問
  - ⑦アドバイス
  - ⑧感想
  - ⑨おわりのあいさつ



- 他のグループの学習計画について考えることができたか。
 

3 1人の児童は質問やアドバイス・感想などを考えることができたと答えている。できなかつたと答えている2人もグループの話し合いにはちゃんと参加している様子うかがえた。1人は「楽しかった」という感想を書いている。

- 考えたけど、発表ははずかしくてできなかった。
- 障害者用のいすのことを思い出したから、グループの話し合いの時言った。
- 発表はできなかったけど、アドバイスなどは考えることができたから良かった。今度からは発表もできるようになりたい。
- 自分から進んで考えることができた。

- 他のグループの計画について、発表し練り合うことができたか。
 

たくさんの児童が発表することができた。学級が一つのテーマ（障害のある人もない人もみんなが仲よく幸せにいらしていける町づくりのために）に向かって、前年度の経験、「総合的な学習の時間」での出会い・つかむ過程の学習経験を生かし、考えることができ、発表するまでに意欲が高まったと思う。発表したことで喜びや充実感を味わった児童もたくさんいた。

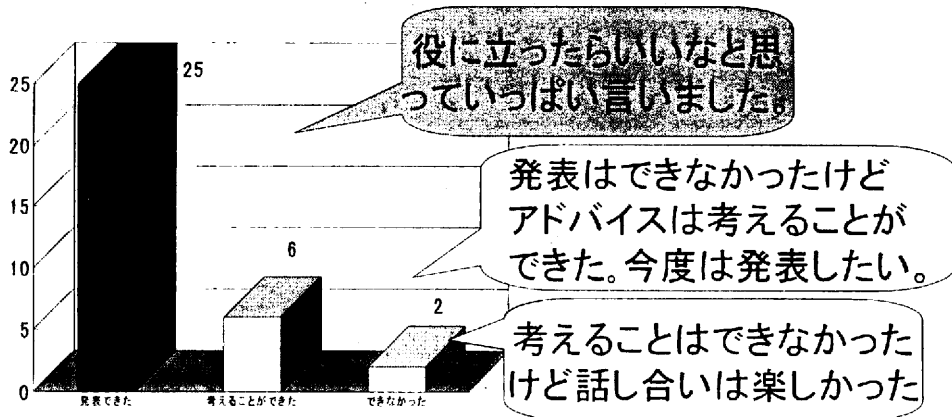
感想で「インタビューの時は緊張すると思うけどがんばって」という児童の声もあり、教えあい、励まし合いの様子が伺えた。

発表の内容については、貴重な意見もたくさん出てきた。その中でも、バリアフリーを調べるグループへ「自分の家の階段と比べてみたらどうですか。」と比較の視点が投げかけられ、これからの追究していく時に大切にしていきたい。

- 公園のトイレは調べないのかなと思ったから質問しました。
- グループのアドバイスが言いたかったのでいっぱい言いました。
- 役に立ったらいいなと思って発表しました。

- グループで話し合い、質問やアドバイスを言えました。感想や質問がこんなにたくさんあるとは知りませんでした。発表できてよかったです。
- どうしてあんなふうにやっているんだろうと思ったから。すごいなと思ったから。
- 発表した時、「そうします。」と言われてうれしかったです。
- 発表が全部できました。「ありがとうございました」と言われてよかったです。
- アドバイスを言って知恵をかしてあげると、勉強も進みやすいから。

バズセッション（集団討議法の一つ）を取り入れ、質問やアドバイスについては、グループで話し合いを持ちそれから発表する方法にしたのは、意見が出やすく発表が多くなるなど有効であった。又、なかなか発表する勇気のない子が自分の意見をグループの話し合いに出すことによりそれを全体の場で生かすことができた。グループでの話し合いが大切な場であったことが確認できた。



- アドバイスを受け、自分のグループの学習計画を見直すことができたか。話し合いで出されたアドバイス（ピンクのカードに書いて貼ってある）を参考にグループで話し合い、全員が見直すことができた。

### (3) 作業仮説(3)の検証

地域の人材を学習協力者として学校に招いたり、子どもが地域に飛び込んで活動することにより、理解・感動体験が生まれ、お互いを認め合い、それぞれの立場で協力しあい助け合っていこうとする心が育つであろう。

- 「宮城小4年地域福祉施設マップ」、「人材リスト」を作成し子どもの活動を具体的に支援することができ、「障害があっても一生懸命がんばっている。」と障害者に対する見方が変容しつつあり「何か自分たちにできることをやってあげたい」と福祉のところが育ちつつある。

## 2 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ① 「総合的な学習の時間」の単元「いけいけ福祉たんけんたい」において自らの課題を見つけるための直接体験を保障すると、自分の興味・関心に基づいて最終的には自分の意志で学習課題を見つけることができ、追究への意欲を持つことができた。
- ② 学習計画検討会でこれからの計画について練り合うことによって、自分のグループの計画を見直すことができ、追究への見通しと意欲を持つことができた。
- ③ グループでの活動を通して、グループ内で友だちとの関わり方や協力することの大切さを経験的に学ぶことができた。
- ④ 体験や交流を生かした活動をすることによって、理解・感動体験が生まれ、福祉のこころが育ちつつある。

### (2) 課題

- ① 児童が主体的に追究活動ができるように、中間発表会や他学年との交流を持つなど、支援のあり方の研究を深める。
- ② 地域の人材や施設をさらに掘り起こすことや、学習環境の整備を行いたい。
- ③ 各教科の基礎的・基本的内容を明確にし、「総合的な学習の時間」と関連づけ、指導効果を高める工夫をする。
- ④ 子どもの学習意欲の向上につながるような評価の工夫をしていきたい。
- ⑤ 校外での活動を安全に効果的に進めるために、家庭や地域との連携のあり方を考える。

### 【おわりに】

子どもたちが、障害を持っている人との体験・交流を通して、思いやりのある子になってほしいと願い研究してきました。いろいろな人との出会いから、自ら課題を見つけ、思いやりの心も育ちつつあり、教師の支援の必要性を実感しました。最後まで、自分の課題を意欲的に追究できるように支援に努めていきたいとします。また、私自身も、研究期間中のいろいろな人との出会いや研修の一つ一つが、貴重なものとなりました。

研究期間中ご指導くださいました、当研究所の大城淳男所長、新川純子係長、山里昌樹指導主事に深く感謝申し上げます。研究所職員の皆様にも大変お世話になりました。

また、教科指導員の仲西小の狩俣直美先生には、忙しい中ご助言いただき有難うございました。さらに、研究の機会を与えてくださった浦添市教育委員会、宮城小の島袋盛光校長先生、研究に協力いただいた先生方に心から感謝します。

### 【参考・引用文献】

- |                      |                   |       |
|----------------------|-------------------|-------|
| 「福祉・健康教育をめざした総合学習」   | 加藤幸次・生野佳子編著       | 黎明書房  |
| 「学校教育における福祉教育ハンドブック」 | 全国ボランティア活動振興センター編 | 全社協   |
| 「実践 総合的な学習の時間」       | 高階玲治編             | 図書文化  |
| 「障害のある人や高齢者との交流」     | 大川原潔編             | 教育出版  |
| 「福祉教育論」              | 村上尚三郎 阪野貢 原田正樹編著  | 北大路書房 |
| 「エンカウンターで総合が変わる」     | 國分康孝監修            | 図書文化  |
| 「ポートフォリオで評価革命」       | 鈴木敏恵編             | 学事出版  |